

第1章 総括

第1章 総 括

マルチメディア教材作成支援ツールの開発は、簡便な教材作成を実現するため、多くの操作を必要とせず簡単に作成できるものであること、加えて、指導員が所有する画像や動画を利用できることを主眼において開発してきた。開発されたツールは、操作性については概ねよい評価を得ている。

ツールによる教材開発は、能力開発で使用する項目を抑え、具体的な目的と用途を前もって明確化することが重要である。企画を立てずにツールによって漠然と教材を開発しても、効果的な教材を作成できないためである。そこで、ツールとは別に企画書様式も提案した。

試行的な教材作成を通して、幾つかの課題が見出せた。一つ目は、企画を立て作成する教材のイメージを持ってもらうことが必要であること。二つ目は、作成者はインターネット利用技術などの基礎的な知識が必要であること。できれば、HTMLの基礎知識を持っていることが望ましいこと。三つ目は、作成者は著作権に関する知識や注意事項を十分認識して作成すること。四つ目として、画像や動画を扱う手法も習得しておく必要があること。五つ目として、教材作成が指導員の業務であり、ツールの使用は一つの手段であることを理解し作成にあたることである。

一つ目については、作成教材のサンプル的な教材を作成し閲覧できる形で提供を行い対応につとめている。本開発の中で10名の指導員の方々に協力いただき、幾つかのサンプル教材を企画作成した。

二つ目については、近年、業務でインターネットやメールを活用していることと、同様の科目や講座が能力開発施設で行われていることから、各指導員が習得することは困難ではなく、資料も施設内にあることが予想される。また、内容的にもそれ程長時間を必要とする知識や技能ではないため、習得は容易であると考えられる。

三つ目については、教材作成全般での注意点ではあるが、本ツールで作成した教材がインターネット上でも公開できる形で作成されることから、一般的なテキスト教材における著作権等の知識に加えネットワークへ公開する場合の知識を知り作成にあたらなければならない。作成者が持たねばならないこれらの知識の周知や普及についてはこれからの課題である。また、今のところネットワークへの公開に関する課題については、未だ不明確な部分が多いのが現状である。

四つ目については、現在普及するパソコン、デジタルカメラ、デジタルビデオカメラで行う場合、操作自体は簡単になっており、基礎的な知識を知っていれば時間を要せずに扱おうことができる。しかし、動画などのデータの編集については専門的な知識やアプリケーションの操作が必要となりそれらの習得に時間を要するものと予想される。

五つ目に、本研究は目的が教材作成ツールの開発になってしまったが、さらに、マルチメ

ディア教材の能力開発施設への普及と活用をどのような方法で行うかが重要な点である。本研究で開発したツールは能力開発施設へ配布するが、実際に教材を指導員が作成し訓練に導入することが業務的にできなければならない。すなわち、開発される教材は、体系的に整備されたコースやカリキュラムで利用されることが前提であり、地域ニーズや産業ニーズを取り入れ計画され実施されるコース及びカリキュラムに利用する教材作成に活用することが重要である。その展開方法や訓練技法の開発は今後に期待したい。